

# 学術情報センター ニュース

## 第42号目次

### 《トピックス》

- [・海外の有識者による外部評価を行う](#)
- [・電子メール関連の新サービス](#)
- [・新CAT/ILLサーバの公開](#)
- [・研究者公募情報提供事業の実施状況](#)
- [・電子図書館サービス説明会開催予定](#)
- [・アジア / 大平洋地域における情報基盤の整備に関する国際会議への出展報告](#)
- [・電子図書館サービスの実施状況](#)
- [・大学の研究者をとりまく研究環境に関する調査 - アンケート調査報告書 -](#)

### 《参加館紹介》

- [・農林水産省農業研究センターにおけるILL利用](#)
- [・国文学研究資料館における学術情報センターシステムの利用](#)

### 《NACSISサービス案内》

- [・学術情報センターシステム利用の継続手続き](#)
- [・文部省科学研究費補助金による利用期限（2月14日）](#)
- [・「ロシア外交史料館日本関連文書目録データベース」および「教科教育実践学関係資料（国語科）データベース」サービス開始](#)
- [・米国回線の増強 - 45Mbps -](#)
- [・新CAT/ILLシステム説明会の開催](#)
- [・年末年始のサービス休止予定](#)
- [・学術雑誌総合目録欧文編全国調査説明会の開催報告](#)

[・「学術雑誌目次速報データベース」の進捗状況](#)

[・NACSIS-ILL利用状況（平成9年度前期）](#)

[・「アメリカン・センター図書館総合目録データベース」および「海外研究プロジェクトデータベース」サービス終了](#)

[・接続ニュース](#)

[・NACSIS-CATデータベース構築状況](#)

[・NACSIS-IRデータベース収納状況](#)

#### 《教育・研修》

[・平成9年度利用説明会開催予定](#)

[・タイ王国からの招へい研修の実施](#)

[・平成9年度学術情報センター・セミナーの開始](#)

[・平成9年度総合目録データベース実務研修 - 修了報告 -](#)

#### 《講演会など》

[・海外における日本情報の供給に関する研究 - Mrs. SUNBeixin, Dr. PARK Ke Hong招へい -](#)

[・データベース'97 TOKYOの出展報告](#)

#### 《その他》

[・海外からの来訪者一覧](#)

[・人事異動](#)

# 海外の有識者による外部評価を行う

本センターでは、昨年度に国内の有識者による外部評価を実施したことに続き、平成9年度は10月14日から17日までの4日間、ブライアン・ペリー博士（英国・図書館情報学）を委員長として、ジョン・ピアス博士（米国・通信工学）、ジェイムズ・フラナガン博士（米国・デジタル通信工学）、ヴォルター・エンゲル博士（独国・電子工学）、ビヨン・パーション博士（スウェーデン・計算機科学）の海外有識者5名に外部評価委員を依頼し、センターの研究開発および事業に対する外部評価を行った。フラナガン博士は来日していただけなかったが、評価レポートには参加していただくこととなった。

初日はセンター本館（文京区大塚）において、研究開発および事業についての概要説明を行い、翌日からは国際高等セミナーハウス（長野県軽井沢）に会場を移し、研究組織、研究支援体制、国際水準との比較をはじめ、学術情報の流通において国際的な貢献をするためにセンターがいかにあるべきかについて、評価が行われた。

自然環境に恵まれた国際高等セミナーハウスでは、委員と所長を中心にセンター教官も宿泊を共にして、早朝から深夜まで熱心にディスカッションが行われた。各外部評価委員は、それぞれの専門分野の立場から、センターの研究開発の推進を中心に、国際的な視点からの客観的な評価・点検を行った。現在この報告書を、作成しているところである。



後列 左から、猪瀬所長、ペリー博士、エンゲル博士、井上副所長

前列 左から、ピアス夫人、ピアス博士、パーション博士

## 外部評価委員の紹介



Dr. Brian Perry

英国・前大英図書館研究開発部長

図書館情報学の専門家であり、英国における図書館情報学の振興に長年に亘り貢献され、国際的なプロジェクトや研究活動の評価などに関して、広範な知識を有しておられる。生物学にも造詣が深く、卓越した研究者である。今回の外部評価委員会の委員長を引受けていただいた。



Dr. John Pierce

米国・スタンフォード大学名誉教授

情報学・電気通信分野の権威として、第1回日本賞をはじめ世界の国々から高く評価され、数多くの国際的な賞を受賞。ベル研究所などにおける研究活動や組織の運営管理に携わられ、優れた業績を残されたことは広く知られている。



Dr. Walter Engl

ドイツ・アーヘン工科大学名誉教授

CADシステム（Computer-Aided Design System）の分野における名声の高い専門家であり、電子計算機を産業分野に活用するための研究開発をされている。学会や調査研究のために来日の回数も多く、日本文化についての深い知識と理解をもとに、センターの将来の方向性と役割について卓越した見識をお持ちである。



Dr. Bjorn Pehrson

スウェーデン・王立工科大学テレインフォマティック研究所長

計算機科学の専門家として、スウェーデンにおける国家プロジェクトのリーダーとして長い経験をお持ちであり、これまでに数回センターを訪問されており、センターについて十分な理解をされている。

Dr. James Flanagan

米国・ニュージャージー州立ラトガース大学副学長

デジタル通信分野の著名な研究者で、ラトガース大学の大規模研究プロジェクトを主導され、優れた功績を残されている。今回はご出席いただけなかったが、貴重なご意見を文書でいただくことになった。



外部評価委員会の会議進行についての打合せ  
左から 井上副所長，猪瀬所長，ペリー博士



初日，センターの研究活動などについて説明を聞く委員



研究活動を説明する大山助教授



各委員から次々と質問が寄せられた。



国際高等セミナーハウスで熱心な議論が続く。



会議を記録するドラフティング・コミティーのメンバー



会議に陪席するセンター教官



セミナーハウスのロビーで談話中の委員

(総務課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 電子メール関連の新サービス

学術情報センターでは、昭和63年4月から国際規格に基づいたMHS方式の電子メールサービス（NACISIS-MAIL）を行っています。

平成8年11月には、電子メールシステムの機種更新を行い、現在は新システムでの運用に移行しています。

新システムでは、従来から提供している電子メールサービスの機能は、すべて継承していますが、新たに導入した機器での新サービスを計画しています。

これらは、順次公開して行きますが、ここでは、その概要をお知らせします。

## 1. マルチメディアメールサービス

文字情報（テキスト情報）だけではなく、画像・音声などのマルチメディア情報を含んだ電子メールの配送サービスを、今年度中をめぐりに公開する予定です。

このサービスでは、メールの送受信に関するほとんどの操作を利用者の手元にあるパーソナルコンピュータなどで行うことができます。Eudra-Pro, AL-Mail, NetscapeNavigatorなど、各々の利用者にとって使い慣れたメールツールで電子メールサービスを利用することができます。これらのメールツールは、「3」のRingServerソフトウェアライブラリサービスから入手できます。

なお、このサービスは、基本的にインターネットからの利用を前提としています。従来から電話回線経由で電子メールサービスを利用している方のために、大塚および西千葉ではダイヤルアップ接続を可能とします。

## 2. ネットワークニュースサービスの拡張

従来の電子メールサービスからRNコマンドで参照できるニュースグループは、fj（FromJapan）およびcomp（COMPUter）のみでしたが、bionet（BIOlogyNETwork）、sci（usenet SCIENCE newsgroups）、soc（usenet SOCIAL issues newsgroups）など、多くのニュースグループを参照できるよう、拡大を図りました。

また、マルチメディアメールサービスからも、同様に多くのニュースグループについて、購読・投稿ができるようになります。利用に際しては、mnewsなどのニュースリーダーを標準で用意しています。

## 3. 公開情報サービスの拡張（Ring Serverソフトウェアライブラリサービス）

公開情報サービスの拡張として、Ring Serverソフトウェアライブラリサービスを平成9年7月から開始しました。これは、ネットワーク上で流通する研究用ソフトウェア（フリーソフトウェア、シェアウェアなど）を数十万種類蓄積し、利用者に提供する大規模FTPサービスで、提供するソフトウェアは、unix用、Windows3.1/95用、MacOS用と多岐にわたっています。このサーバは、本センター以外に複数の機関で運営されており、サーバに蓄積されたソフトウェアの内容は、互いに同期が取られ、常に最新の状態に維持されています。

著名なソフトウェアの最新版の多くは、Ring Serverソフトウェアライブラリサービスに保存されていますので、従来のように複数機関のFTPサーバを探し回る必要がなく、SINET内で高速なダウンロードを行うことができます。

このサービスは、電子メールサービスの利用者以外にも開放されています。

利用方法は、以下のとおりです。

利用者側で用意するツール	接 続 先
Netscape NavigatorやInternet ExplorerなどのWebブラウザ	<a href="http://ring.nacsis.ac.jp/">http://ring.nacsis.ac.jp/</a>
FTPクライアント	ring.nacsis.ac.jp 利用者IDはanonymousを、パスワードは利用者自身の電子メールアドレスを入力してください。

## 4 . WWWキャッシュサーバサービス

SINET上にWebのキャッシュサーバを置き、多くの人々が利用するWebの情報を一時的に蓄えておきます。利用者が閲覧しようとする情報のうち、WWWキャッシュサーバ内にあるものは、情報を提供しているサーバではなく、キャッシュサーバから利用者に情報を返します。WWWキャッシュサーバサービスを使用することによって、インターネットのトラフィックのうち大部分を占めるWebの通信量を減らすことができ、ネットワークの混雑緩和とレスポンスの向上を図ることができます。

なお、このサービスは、本センターが個々の利用者に直接サービスを行うものではなく、利用者の所属する機関が運用するWWWキャッシュサーバの上位サーバとして機能するものです。

情報処理センターなどの管理者の方で、WWWキャッシュサーバサービスの相互接続に関するお問い合わせは、事業部システム管理課システム業務係（043-285-4911）までお願いします。

各々のサービスの利用開始時期については、順次オンラインニュースなどでお知らせします。

実際の利用方法は、

NACISIS-MAILのBBS、

[WWW \( http://www.nacsis.ac.jp/nacsis.index.html \)](http://www.nacsis.ac.jp/nacsis.index.html)

などに掲載しますので、こちらをご覧ください。

(システム管理課)

# 新CAT/ILLサーバの公開

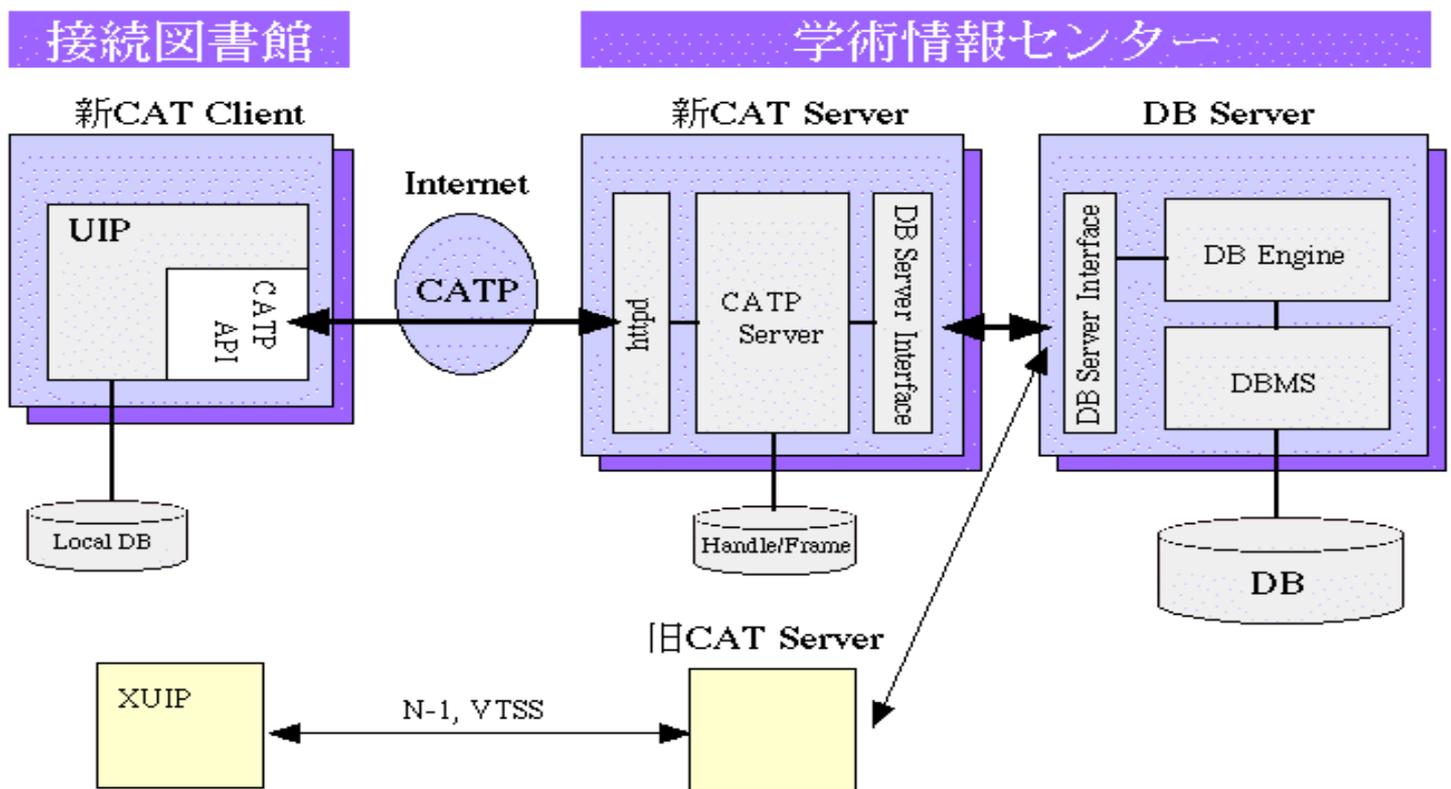
平成9年11月から、新目録所在情報システムの新目録システム（新CAT）の業務用/教育用サーバ、新ILLシステムのテスト用サーバを公開した。新CATクライアントのテスト用サーバは平成9年4月から公開しており、図書館システム開発業者および図書館での開発・テストに利用されていた。今回の業務用/教育用サーバの公開により、実際の業務あるいは講習会での利用が可能となった。現在CATを利用している図書館で、新CATシステム対応の準備が整ったところであれば利用できる。

- (1) 公開日：平成9年11月4日（火）
- (2) 利用方法：事業部目録情報課 図書目録情報係に照会のこと

新ILLについては、今回はテスト用サーバを公開し、次いで業務用および教育用サーバの公開を行う予定である。

- (1) テスト用サーバ公開：平成9年11月下旬
- (2) 業務用/教育用サーバ公開予定：平成10年4月

## 新CATシステムの構成



目録システム構成図

(目録情報課)

# 研究者公募情報提供事業の実施状況

平成9年5月20日から開始した、各大学等機関から公募情報を収集し学術情報ネットワークを介して公開する「研究者公募情報提供事業」の実施状況をお知らせします。

## 1. 利用状況（平成9年11月21日現在）

271機関から、1,028件（1,324名分）の公募情報の提供を受けています。

	国立	公立	私立	合計
大学	78	26	94	198
短期大学	3	13	17	33
高等専門学校	28	2	0	30
大学共同利用機関	10	-	-	10
合計	119	41	111	271

機関から提供を受けた公募情報は速やかにデータベース化して研究者公募情報サービスのホームページ（<http://nacwww.nacsis.ac.jp/>）で公開し、公募の期限を過ぎた情報は消去しており、現在115機関235件（335名分）の公募情報を収録しています。

ホームページの閲覧者数（アクセスされたマシンのIPアドレスの異なり数）は、約9万人となっています。

## 2. 大学教員の任期に関する規則整備への対応

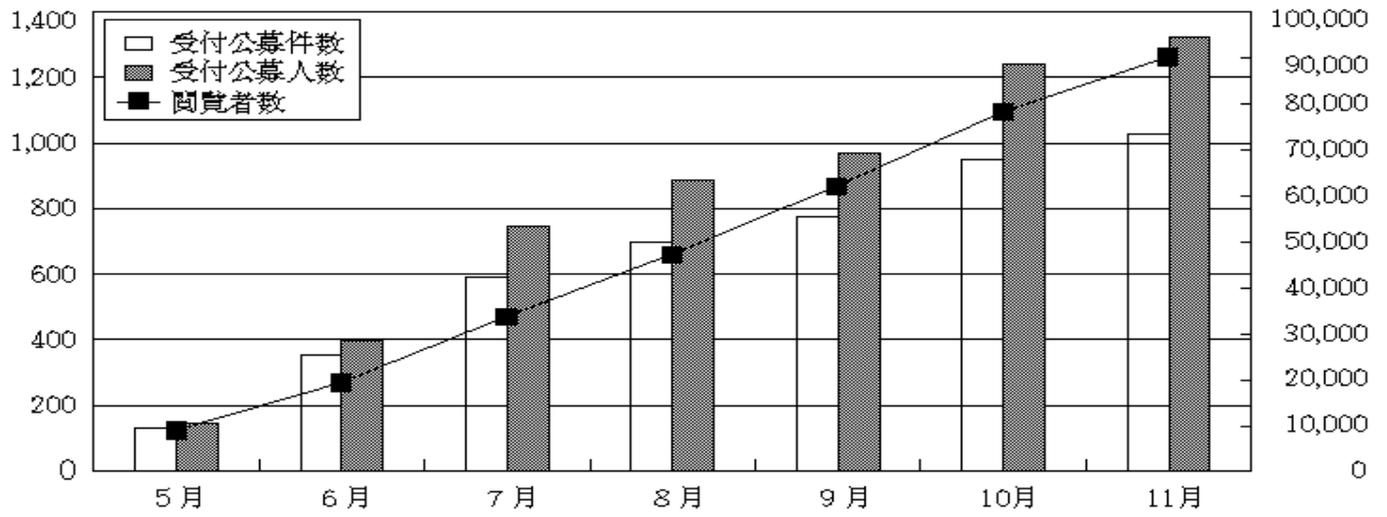
事業の関連情報として、「大学の教員等の任期に関する法律」（平成9年法律第82号）の施行に伴い、任期制を運用する各大学や各学校法人が定める規則を収集し、通覧できるように対応します。公募情報と同様の方法で各機関から規則の提供を受け、研究者公募情報サービスのホームページに掲載しています。

研究者公募情報サービスホームページのURL <http://nacwww.nacsis.ac.jp/>

お問い合わせ先 データベース課研究者情報係（TEL：03-3942-8588，e-mail: [cis@nacsis.ac.jp](mailto:cis@nacsis.ac.jp)）

公募数(件・人)

閲覧者数(人)



(データベース課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 電子図書館サービス説明会開催予定

学術情報センター電子図書館サービスの説明会を平成10年1月から全国9か所で開催する予定です。

この説明会では、現在公開しているWWWブラウザ対応プラグイン・ソフトウェアに加えワークステーション対応の専用クライアント・ソフトウェアの使い方や導入方法などデモンストレーションを交えての使用方法の他、今後の利用に当たって変更する内容について説明を行います。

説明会の開催場所、開催日時の詳細については、決まり次第

URL : <http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html>

ホームページでご案内いたします。

(データベース課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# アジア / 太平洋地域における情報基盤の整備に関する

## 国際会議への出展報告

9月16日から18日までの3日間、国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議場にて、図書館情報大学主催、文部省、ユネスコ協力による「アジア / 太平洋地域における情報基盤の整備に関する国際会議」が開催され、国内外研究者約100名の方々が参加されました。同会議では併設して展示会が行われ、学術情報センターからは、電子図書館サービスの展示を行いました。本センターのブースを訪れた研究者の電子図書館への関心が高く、説明に熱心に耳を傾けていました。



(データベース課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 電子図書館サービスの実施状況

## 1. 収録コンテンツの状況

収録対象は、12月初め現在で、各分野の31学会56誌の発行する学会誌・論文誌となっています。これらの学会のうち13学会27誌の学会誌・論文誌を収録しています。今後、順次登録を行い、利用可能といたします。

学会名 Societies	雑誌名 Journals	範囲 Years covered	
		収録済	収録予定
第1部 人文科学 Humanities			
日本独文学会	ドイツ文学	97号 (1996)	98号 (1997) ~
日本フランス語フランス文学会	Etudes de Langue et Litterature Francaises = フランス語フランス文学研究	69号 (1996) , 70号 (1997)	1号 (1962) ~
日本教育学会	教育学研究	第64巻1-2号 (1997)	第64巻 (1997) ~
日本教育社会学会	教育社会学研究		第1巻 (1951) ~
日本教育情報学会	教育情報研究		第1巻 (1985) ~
	年会論文集		5回 (1989) ~
日本図書館学会	図書館学会年報		第43巻 (1997) ~
美術科教育学会	美術教育学		第18号 (1997) ~
日本家庭科教育学会	日本家庭科教育学会誌		第35巻 (1992)
日本体育学会	体育学研究	第40巻 (1995 ~ 1996) , 第41巻5, 6号 (1997) , 第42巻1号 (1997)	第1巻 (1951) ~
(財)史学会	史学雑誌		85編 (1976) ~ 100編 (1991)
ロシア史研究会	ロシア史研究	54号 (1994) ~ 60号 (1997)	1号 (1960) ~
第2部 法律学 Law			
第3部 経済学 Economics			
オフィス・オートメーション学会	オフィス・オートメーション (情報系を含む)		第1巻 (1980) ~

記録管理 学会	レコード・マネジメント		No.34 (1997.7) ~
第4部 理学 Pure Sciences			
日本生物 物理学会	生物物理	第35巻(1995), 第37 巻2-3号(1997)	第30巻(1990) ~
(社)日 本気象学 会	天気	第42巻(1995), 第44 巻2-6号(1997)	第40巻(1993) ~
	Journal of the Meteorological Society of Japan	Vol.73(1995), Vol.75, No.1-2(1997)	Vol.71(1993) ~
日本海洋 学会	海の研究		第1巻(1992) ~
日本科学 教育学会	科学教育研究		第1巻(1977) ~
	研究会研究報告		第1巻 ~
	年会論文集		第1巻 ~
第5部 工学 Engineering			
(社)人 工知能学 会	人工知能学会誌	第10巻(1995), 第12巻 2号(1997)	第1巻(1986) ~
(社)日 本応用磁 気学会	日本応用磁気学会誌		第21巻3号 (1997) ~
(社)電 子情報通 信学会	電子情報通信学会誌	第78巻(1995), 第80 巻1-5号(1997)	第76巻(1993) ~
	電子情報通信学会論文 誌・A	第78巻(1995), 第80 巻1-5号(1997)	第76巻(1993) ~
	電子情報通信学会論文 誌・B -	第78巻(1995), 第80 巻1-5号(1997)	第76巻(1993) ~
	電子情報通信学会論文 誌・B -	第78巻(1995), 第80 巻1-5号(1997)	第76巻(1993) ~
	電子情報通信学会論文 誌・C -	第78巻(1995), 第80 巻1-5号(1997)	第76巻(1993) ~
	電子情報通信学会論文 誌・C -	第78巻(1995), 第80 巻1-5号(1997)	第76巻(1993) ~
	電子情報通信学会論文 誌・D -	第78巻(1995), 第80巻1, 3-5号(1997)	第76巻(1993) ~
	電子情報通信学会論文 誌・D -	第78巻(1995), 第80 巻1-5号(1997)	第76巻(1993) ~
	IEICE Transactions. A	Vol.78(1995), Vol.80, No.1, 3-5(1997)	Vol.76(1993) ~
	IEICE Transactions. B	Vol.78(1995), Vol.80, No.1-5(1997)	Vol.76(1993) ~

	IEICE Transactions. C	Vol.78, No.1-5, 7-12 (1995) ,	Vol.76 (1993) ~
		Vol.80, No.1-5 (1997)	
	IEICE Transactions. D	Vol.78 (1995) , Vol.80, No.1-5 (1997)	Vol.76 (1993) ~
	電子情報通信学会技術研究報告		(1993) ~
	電子情報通信学会大会講演論文集		(1994) ~
(社)情報処理学会	情報処理	第36巻(1995) , 第38巻3-4号(1997)	第1巻(1960) ~
	情報処理学会論文誌	第36巻(1995) , 第38巻3-6号(1997)	第20巻(1979) ~
	Journal of Information Processing		Vol. 1 (1978) ~ Vol.15 (1993)
	Information Processing in Japan		Vol.15 (1975) ~ Vol.17 (1977)
	情報処理学会研究報告		Vol.93, No.32 (1993) ~
	情報処理学会全国大会講演論文集		Vol.33 (1986) ~
(社)情報科学技術協会	情報の科学と技術	第45巻(1995) , 第47巻3-5号(1997)	第40巻(1990) ~
(社)日本音響学会	日本音響学会誌	第51巻(1995) , 第53巻3-7号(1997)	第1巻(1939) ~
	The Journal of the Acoustical Society of Japan	Vol.16 (1995) , Vol.18 (2-4) (1997)	Vol. 1 (1980) ~
日本AEM学会	日本AEM学会誌		Vol. 1 (1993) ~
第6部 農学 Agriculture			
(社)日本獣医学会	The Journal of Veterinary Medical Science		Vol. 1 (1939) ~
(社)日本家政学会	日本家政学会誌	第46巻(1995) , 第48巻3-6号(1997)	第31巻4号(1980) ~
第7部 医学 Medicine			
日本脳神経外科学会	Neurologia Medico-chirurgica		Vol. 1 (1959) ~
日本平滑	Journal of Smooth Muscle Research		Vol.33 (1997) ~

筋学会	Journal of Smooth Muscle Research Japanese Section	Vol. 1 (1997) ~
日本消化器外科学会	日本消化器外科学会誌	第1巻 (1969) ~
大阪歯科学会	歯科医学	第53巻 (1990) ~
	Journal of Osaka Dental University	Vol.24 (1990) ~
日本トキシコロジイ学会	Journal of Toxicological Sciences	Vol. 1 (1976) ~

## 2. ソフトウェアの提供状況

### (1) UNIXワークステーション

次の機器では、学術情報センター電子図書館の専用クライアント・ソフトウェアにより使用することができます。

SUN Microsystems社製または同互換機のワークステーション

(OS: SunOS 4.1.X上のX11R5, X11R6又はSolaris 2.X上のX11R5, X11R6, OpenWindows)

SunOS対応専用クライアント・ソフトウェア

SunOSファイヤーウォールSOCKS対応専用クライアント・ソフトウェア

NEC社製のワークステーション (EWS4800) (OS: EWS-UX/V 4.2MP)

EWS-UX対応専用クライアント・ソフトウェア

DOS/Vパーソナルコンピュータ (OS: Solaris 2.5.1 for X86)

X86対応専用クライアント・ソフトウェア

備考: メモリ32Mbyte以上を推奨

Hewlett Packard社製ワークステーション (HP9000) (OS: HP-UX)

HP-UX対応専用クライアント・ソフトウェア [予定]

### (2) パーソナルコンピュータ

次の機器では、WWWブラウザと学術情報センター電子図書館プラグイン・ソフトウェアとの組み合わせで使用することができます。

パーソナルコンピュータ (OS: Microsoft Windows95)

必要なソフトウェア: Microsoft Windows95又はMicrosoft WindowsNT3.51以上およびNetscapeNavigator Version2.0以上又はMicrosoft Internet Explorer3.0以上

Netscape Navigator対応プラグイン・ソフトウェア 版

Microsoft Internet Explorer対応プラグイン・ソフトウェア 版

備考：メモリ32Mbyte以上を推奨

Apple社製のPower Macintosh又はMacOS搭載機（OS：MacOS）

必要なソフトウェア：漢字Talk7.X又はMacOS7.6以上およびNetscape NavigatorVersion2.0以上又はMicrosoft Internet Explorer3.0以上

Power Macintosh対応プラグイン・ソフトウェア

\* 版は印刷機能がありません，準備が整い次第，印刷機能を提供いたします。

\* 収録およびソフトウェアの最新提供状況については，ホームページ

[URL：http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html](http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html)

をご覧ください。

（3）ソフトウェアの入手

各ソフトウェアの入手は，ホームページ

[（URL：http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html）](http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html) 又は本センターのAnonymousFTPサーバ  
（FTP：ftp://info.nacsis.ac.jp/pub/els）から無料で入手することができます。

（データベース課）

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 大学の研究者をとりまく研究環境に関する調査

## アンケート調査報告書

学術情報センター教授

太田和 良幸

文部省学術調査官を併任している研究者および政策科学の専門家などにより構成される研究グループを組織し、科学研究費補助金による援助を受け、平成8年度を中心として、大学の研究者をとりまく研究環境などについて実態調査（アンケート調査）を実施した。研究グループでは、同アンケート調査を中心とした調査研究データを総合的に分析することによって、研究施設の老朽・狭隘化や研究設備の陳腐化をはじめとする学術研究環境（基盤）整備の基本的考え方を明らかにすることを目指している。

同グループでは、本年6月、このアンケート調査の集計結果を今後の分析・研究の基礎資料とするとともに、学術施策に資する資料とするため、「大学の研究者をとりまく研究環境に関する調査 - アンケート調査報告書（総括編）」として取りまとめた。また、同報告書と同じ内容は、WorldWide Web（インターネット）上にも掲載する（学術情報センター研究開発部のホームページ（<http://www.rd.nacsis.ac.jp/index-j.html>）からアクセスできる）予定である。ご多用中にもかかわらず本調査の回答にご協力いただいた多くの方々にこの場を借りて重ねてお礼申し上げたい。

表1 アンケート調査事項

研究費関係	文部省科学研究費補助金の役割（依存度）、大学研究費に対する政府支出の在り方、研究費の配分方法、民間資金の導入についての考え方、研究費充実のための有効な手段、財源の多様化による研究環境の差の拡大についての考え方、平成7年度の個人研究費額、研究費の使用経費別支出内訳
研究設備関係	必須の研究設備の有無、必須の研究設備がない場合の対応状況、研究設備の外部研究者との共同利用状況、他学部、他大学、大学共同利用機関などの研究設備の共同利用状況、研究設備の陳腐化状況、新規研究設備の有効年数、新たな研究設備の設置スペースの有無
研究施設関係	研究施設における当面の課題、研究室などの面積、研究室などの面積が少ない理由、不足しているスペースの状況
研究支援関係	研究支援職員数の現状、研究支援職員の不足人数、研究支援職員への要望、機関外委託業務の現状
国際交流関係	国際研究交流・協力経験の有無、実現しなかった国際研究交流・協力の有無、実現しなかった国際研究交流・協力の理由、外国人研究者受入れのための改善策
その他	本来実施すべき教育研究業務の現状、研究者の流動化についての考え方、政府の重点施策の考え方、所属研究単位の構成人員状況

同アンケートの調査事項は、表1のとおりであるが、以下では、調査結果の中から、興味深いものをいくつかご紹介したい。

1) 平成7年度における調査対象者個人(一人分)の資金源別研究費については表2のとおり結果となった。研究費支出の合計は、全回答者の平均値が290万円となった。ただし、研究費支出の合計を10万円ごとに区分して集計すると、中央値は、全体では100万円超～110万円以下、国立大学160万円超～170万円以下、公立大学130万円超～140万円以下、私立大学70万円超～80万円以下となり、平均値よりもかなり低い結果となっている。なお、最頻値では、全体で40万円超～50万円以下となるが、この値のほうが平均的研究者にとっては、実感的な数字に近いとも思われる。これらの経費のうち、大学当局から配分された研究費と文部省科学研究費補助金については、概ね半数の回答者が拡充を希望している。

表2 大学の研究者の資金源別研究費

資金源	研究費額(平均値)	拡充希望割合(複数回答)
大学当局	99万円	49.3%
文部省科学研究費補助金	81万円	45.0%
特殊法人など出資金事業	18万円	5.3%
文部省以外の省庁, 特殊法人	17万円	8.9%
地方公共団体	3万円	7.2%
民間企業	43万円	14.6%
研究助成財団	13万円	17.7%
外国	0万円	0.6%
その他	16万円	0.5%
計	290万円	

(注) 研究費は、個人が研究のため(教育などの経費は除く)に使用したものであり、設備の維持費・運転経費、光熱水料など所属機関(大学、学部など)が管理した場合は除外している。また、一人当たりの研究費額を算出するため、複数の人で共同して使用している研究費は適宜案分して回答いただくよう依頼した。

2) 研究費の使用経費別支出内訳の一環として、「不足した研究費」を尋ねた結果では、設備・備品費(全回答者の35.8%)が不足すると答えた人が最も多く、この他、国内旅費(26.4%)、消耗品費(24.1%)、図書費(17.2%)、外国旅費(16.2%)の順になった。

3) 使用している研究室などの研究施設において、当面している最大の課題は何か尋ねた結果では、最大の課題として、「研究室などの面積」を選択した人の割合が最も多く、67.8%に達した。この次に多かったのは、「情報化への対応」で、36.7%である。また、「研究施設の老朽化」を選択した人の割合も23.0%あった。このように、大学などの研究施設の直面している課題は、施設の狭隘および老朽化と情報化などの高度化への対応ということになった。

4) 研究環境の背後にある勤務環境全般の問題として、「自らの勤務状況に関して、本来の教育研究の業務が十分実施できていると思いますか」と尋ねた結果では、本来実施すべき教育研究業務が「十分行われている」と答えた人は13.3%であり、74.8%の人は何らかの理由で十分行われていないと回答している。十分実施できない理由とし

て最も回答が多かった項目は、「教授会など管理的業務が多いので十分行うことができない」であり、29.9%だった。この他、「経理書類の作成など事務的業務が多く、必ずしも十分できていない」および「技官の不足など技術支援機能が不十分なので、十分行うことができない」もそれぞれ23.2%、21.6%あり、大学教員の多忙な勤務環境が浮き彫りになっている。

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 農林水産省農業研究センターにおけるILL利用

農林水産省農業研究センター情報資料課管理係長

中尾 美佐子

農業研究センターの役割は、当センターの要覧によると第1に水田や畑の生産力を発展させ、安全で高品質の食料を安定的に供給する技術を開発することである。第2に農業を担う人を支え、美しく豊かな農村づくりに役立つ技術と方法を研究することである。これらの役割を果たすために、農業に関する専門試験研究機関などの専門的知識を活用しつつ、総合的な試験研究を推進すべく昭和56年12月筑波研究学園都市の一画に設立された。

情報資料課では、研究活動に貢献するべく人手と予算の制約があるなかで、多岐に渡る文献収集および各種サービスを日々迅速に行っている。図書館業務担当は、6名（司書専門官1，管理係2，非常勤職員3）で2ヶ所（自然科学系および社会科学系）の図書室を運営している。共通図書購入費は約2,500万円，研究職職員約200名である。ILL利用件数など業務対応件数を簡単に示す。

## （1）複写依頼件数

	1996年度	1997年4月～10月
ILL（複写申込）	138件（8.7%）	212件（24.9%）
他の外部機関	147件（9.2%）	90件（10.6%）
農林水産省内	1,308件（82.1%）	550件（64.6%）
計	1,593件	852件
ILL（貸出）	3件	4件

## （2）主なサービス件数（平成8年度，数字は概数）

- ・単行書受入 1,800冊（蔵書数6万1千冊）
- ・資料類受入 500冊（蔵書数6万3千冊）
- ・雑誌受入 2,400種
- ・貸出 3,700冊 農林水産省内相互貸出 44件
- ・複写（提供 1,493件（省内1,167件，省外326件）
- ・複写（依頼 1,593件（省内1,308件，省外285件）
- ・コンテンツサービス 70誌
- ・情報検索（代行） 54件

ILLは、モデム接続により利用してきたが、本年1月にネットワーク接続に移行し日常的に利用している。昨年度の一次文献入手はILLが10%に満たないが、今年度は既に200件を超え、25%近い論文を入手している。今年度中にはBLDSCへの申込も予定しており、今後はより重要な情報の入手ツールとなる。また、件数にあらわれない利用として、1つは図書館職員の書誌確認のための利用があり、曖昧な問い合わせに対して充実したデータ量が威力を発揮する。2つめはWebcatでの提供による利用者の直接検索がある。文献の所在、購入希望図書の確認などに使われる。

ILLを利用し国立大学機関から文献を入手するたびに、その速さと安さに感謝して

いるが相互利用が望ましいことはいうまでもなく，国立機関である当センターが安い料金にて提供できる道をさぐりたいと考える。

最後に，ILLが混雑する時間帯があるため，さらなる機能向上を期待するとともに，電子図書館サービスなどの新しいサービスに対しても，いままでどおり省庁の壁を超えて広く提供願えるよう希望する。

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 国文学研究資料館における学術情報センターシステムの利用

国文学研究資料館整理閲覧部

野 口 真理子

## 1 . はじめに

国文学研究資料館は大学共同利用機関の一つとして1972年に創設された。当館は国文学に関する文献資料を調査研究して、収集、整理、保存し、これを広く研究者一般の利用に供して国文学研究の進展に寄与することを第一の目的としている。

整理、保存、利用の業務を担うのが当整理閲覧部である。国文学関係の古典籍（写本・版本）を所蔵者の協力により撮影したマイクロ資料や、古典籍原本、国文学に関する逐次刊行物、研究書などを収集し、閲覧利用や相互貸借サービスを行っている。

## 2 . 国文学研究資料館のコンピュータ活用

当館は学術情報の図書館業務の処理のために設立当初からコンピュータ利用を積極的に図ってきた。1970年代後半から1980年代前半にかけてシステム部門を担う研究情報部情報処理室と共同で「マイクロ資料目録作成システム」、「図書資料管理システム」、「逐次刊行物目録作成システム」、「和古書目録作成システム」を開発してきた。また、和古書（古典籍原本）目録・マイクロ資料目録のオンライン検索サービスを1987年に開始した。

## 3 . 学術情報センターシステムの利用

早期に独自の業務システムを稼働した当館だが、学術情報センターシステムの利用はやや遅れて1992年から始まった。図書のうち、古典籍原本を除く研究書の日録情報をNACSIS-CATを利用して入力している。また、1993年からは遡及入力作業にも着手し、現在研究書の約4割の入力が完了している。入力したデータは月に1回OPACに格納し、館内から検索できるようになっているほか、1995年からTELNETを利用したインターネットでの検索サービスを開始し、館外からの検索を可能にした。

URL : <http://www.nijl.ac.jp/opac2.html>

## 4 . 今後の課題

逐次刊行物目録は冊子体として刊行していたため、OPACへデータが格納されていない。NACSIS-CATのデータを整備し、OPACで検索できるよう準備中である。

また、同じ所蔵目録でありながら別々の検索サービスを行っているマイクロ資料目録DB、和古書目録DBとOPACの統合化も大きな課題である。さらに館内他部局と協力して国文学論文目録DBや今後公開が予定されている各種のDBとリンクさせ、二次情報の検索から所在情報の入手、画像情報や原本テキスト情報の公開、ILLまで統合したサービスをめざしていきたい。そのために学術情報センターを含めた関連機関のシステムとの連携を進めていきたいと考えている。

# 学術情報センターシステム利用の継続手続き

昨年同様、学術情報センターシステム（情報検索サービス、電子メールサービスおよび国際電子メールサービス）を平成10年度も引き続き利用する方は、平成10年2月2日から3月23日の期間に1または2の方法で継続手続きを行なってください。

なお、支払科目を変更する場合、文部省科学研究費補助金を支払科目とする場合、利用期限が3月末日でない場合は、継続申請を行うことはできません。

また、電子図書館サービスについても、平成10年度も引き続き利用する方は、別途、継続の手続きが必要となります。詳しい継続方法、受付期間については平成10年1月下旬に郵送でお知らせする予定です。

## 1．学術情報センターへ直接申請した利用者

昨年同様、利用者宛へ継続利用申請書は送付しませんので、支払責任者および経理責任者と相談の上、今年度と同じ内容（登録内容に変更がない）で次年度も利用を継続する場合は、「APPLY」コマンドにより継続の申請を行ってください。

なお、次年度から登録内容を変更する場合は、「学術情報センターシステム利用申請書」により「変更」の申請を行い、備考欄に必ず「継続後の変更」と明記してください（「継続後の変更」と明記がない場合はその年度の内容が変更されることとなり、継続の申請としては取り扱いませんのでご注意ください）。

また、継続受付期間内に継続の手続きを行わなかった場合は、平成10年4月以降の利用はできなくなりますが、6月末迄の期間は、失効した利用者番号で学術情報センターに接続すると「継続の有無」が表示されますので、継続すると答えることにより継続の申請を受け付けます（ただし、継続の手続きが終了するまで約1～2週間利用できなくなります）。

## 2．大型計算機センター経由により申請した利用者

利用者が所属する大型計算機センター（所属センター）へ継続申請を行った後、継続受付期間内に、所属センターから学術情報センターの継続申請を、第二センター申請コマンドにより行ってください。

なお、第二センター申請コマンドの詳細は所属する大型計算機センターへ問い合わせてください。

〔各申請の受付期間〕

申請の種類	受付期間
平成9年度 新規・追加の受付	平成10年2月27日（金）まで
平成9年度 変更・取消の受付	平成10年3月27日（金）まで
平成10年度への継続の受付	平成10年2月2日（月）から3月23日（月）
平成10年度 新規の受付	平成10年4月1日（水）から

ただし、平成10年度の学術情報センターへの新規申請は平成10年3月23日（月）から受け付けます。

〔継続申請の方法〕

	利用者種別	継続条件	継続手続き
継続処理	学術情報センターへの直接申請による利用者	登録内容に変更なし	「APPLY」コマンドにより継続の申請を行う。
		登録内容に変更あり	利用申請書に必要事項を記入・押印のうえ、備考欄に「継続後の変更」と明記し申請する。
	大型計算機センター経由による利用者	登録内容に変更なし	利用者が所属する大型計算機センターへ継続の申請を行った後、第二センターとして学術情報センターへの申請を第二センター申請コマンドで継続の申請を行う。
		登録内容に変更あり	
継続を失念した場合	学術情報センターへの直接申請による利用者	登録内容に変更なし	失効した利用者番号で学術情報センターに接続し、「継続の有無」の問い合わせで継続の申請を行う。
		登録内容に変更あり	失効した利用者番号で学術情報センターに接続し、「継続の有無」の問い合わせで継続の申請を行った後、利用申請書で変更の申請を行う。
	大型計算機センター経由による利用者	登録内容に変更なし	利用者が所属する大型計算機センターへ申請（継続・新規とも）した後、第二センターとして学術情報センターへの申請を第二センター申請コマンドで新規に申請する。
		登録内容に変更あり	

〔申請書の登録内容〕

事項	コマンド
登録内容の確認	継続受付期間内は「APPLY」コマンドで確認できます。4月以降は「CHKAPPLY」コマンドで確認できます。

(共同利用第一係)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

## 文部省科学研究費補助金による利用期限（2月14日）

学術情報センターシステム（情報検索サービス，電子メールサービスおよび国際電子メールサービス）の利用料金の支払いのうち，文部省科学研究費補助金によるものの利用期限は，平成10年2月14日（土）までになります。利用料金の請求（納入告知書）は，平成10年2月20日頃に送付する予定です。

なお，CHARGEコマンドによる利用料金参照機能も，2月15日（日）からは利用できませんので，2月の利用料金についてはデータベース検索終了時に表示される利用料金の内訳をご覧ください。

（共同利用第一係）

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 「ロシア外交史料館日本関連文書目録データベース」および

## 「教科教育実践学関係資料（国語科）データベース」サービス開始

ロシア外交史料館で所蔵する日本関連文書の目録情報を収録した「ロシア外交史料館日本関連文書目録データベース」および鳴門教育大学附属図書館が所蔵する教科教育実践学のコレクションの書誌・所蔵情報を収録した「教科教育実践学関係資料（国語科）データベース」のサービスを平成9年11月1日（土）から開始しましたので、その概要などをお知らせいたします。

### 1. 概要

#### （1）ロシア外交史料館日本関連文書目録データベース

##### 収録対象

ロシア外交史料館で所蔵する日本関連文書のファイルの目録情報を収録。

なお、データはキリル文字で入力されていますが、利用者の検索の便を考慮し、米国議会図書館採用のスラブ文字翻字表に基づくローマ字化（アルファベット化）したデータも収録しています。

##### 収録範囲，収録件数

1850年～1962年。サービス開始時の件数は5,500件。

##### 収録項目

ファイルナンバー，ファイル名，ファイル内の文書の詳細，ファイル作成日付，ファイル完成日付，文書枚数

##### 呼び出しコマンド

「RUSDIPAR」

#### （2）教科教育実践学関係資料（国語科）データベース

##### 収録対象

鳴門教育大学附属図書館が所蔵する「野地潤家文庫」および「大村はま文庫」の書誌・所蔵情報を収録。

「野地潤家文庫」：鳴門教育大学野地潤家学長の寄贈文庫。明治以降の日本の国語教育学文献を網羅的に収集。

「大村はま文庫」：戦後の国語教育に多大の貢献をした国語教師大村はま氏の寄贈文庫。国語の教科実践の資料，とくに学習記録・文集などの貴重な資料を収集。

##### 収録範囲，収録件数

サービス開始時の件数は9,000件。年間増加件数は約9,000件。

##### 収録項目

標題および著者名，出版者，出版年，内容注記，分類，件名など。

呼び出しコマンド

「KOKUGOKA」

## 2 . 利用方法

データベースの内容および利用方法などについては、それぞれの「NACSIS-IRデータベースシート」をご覧ください。

なお、データベースシートはお手元のFAXから取り寄せることもできます。詳しくはセンターニュース36号の「FAX情報サービス」をご覧ください。

また、WWWでも同様のものを見ることができます。

URLは、次のとおりです

( 1 ) ロシア外交史料館日本関連文書データベース

<http://www.nacsis.ac.jp/ir/dbmember/rusdipar-j.html>

( 2 ) 教科教育実践学関係資料 ( 国語科 ) データベース

<http://www.nacsis.ac.jp/ir/dbmember/kokugoka-j.html>

## 3 . 利用料金

データベースを呼び出す都度...30円 / 回

なお、利用に係る経費は、各データベースの利用額の月毎の合計額にその5%を加算した額となります。

( データベース課 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

## 米国回線の増強 - 45Mbps -

平成9年10月3日(木)より、日本 - 米国間のSINET国際専用回線を約7倍に増速しました。

今回、通信帯域の大幅な増加により、輻輳状態が発生していた海外との学術研究通信の現状が抜本的に改善される見込みです。

問い合わせ先：

TEL：(03) 3942 - 6906

(03) 3942 - 6907

FAX：(03) 3942 - 9398

(ネットワーク課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

## 新CAT/ILLシステム説明会の開催

新目録所在情報システムの利用・開発の現状を知っていただくために、新CAT/ILLシステム説明会を開催します。

新CATシステムの開発テスト用サーバは平成9年4月から、また業務用/教育用サーバは平成9年11月から公開し、既に一部の機関に利用いただいております。しかしながら、さらに多くの方々に未だ新CAT/ILLシステムの具体的な姿をご覧になっていただくために、以下の説明会を開催することとしました。

この説明会では、新CAT/ILLシステムの現状および対応システムの事例紹介を中心にしておりますので、図書館システム開発・導入の参考にしていただきたいと考えております。

日時・場所などの詳細については、別途ご案内いたします。

内容（予定）：

- 1．新CAT/ILLシステムの現状・今後のスケジュール
- 2．新CAT/ILL対応システムの開発事例報告
  - (1) 新CAT対応クライアント
  - (2) 新ILL対応クライアント
  - (3) 新CAT対応所蔵自動登録クライアント
  - (4) 新ILL対応文献画像伝送システム

( 目録情報課 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 年末年始のサービス休止予定

年末年始の各サービス休止予定は、次のとおりです。これ以外にサービスを休止する必要が生じた場合は、その都度各サービスのオンラインニュースなどでお知らせします。

サービス	休 止 日 時
目録所在情報サービス	12月27日（土）～1月5日（月）
情報検索サービス	12月28日（日）～1月5日（月）
電子メールサービス	12月24日（水）12：00～17：00（12月31日の定期保守の振替）

なお、電子図書館サービス、研究者公募情報サービスおよびWebcatの休止予定は、ありません。

（システム管理課）

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 学術雑誌総合目録欧文編全国調査説明会の開催報告

これまで学術情報センターニュースなどでお知らせしてまいりましたとおり、平成9年度から学術雑誌総合目録欧文編の改訂作業を始めております。改訂作業の中心となる全国調査の開始に先立ち、平成9年10月28日～11月7日にかけて全国調査説明会を全国7か所の会場で計8回開催しました。

今回の調査には、前回の欧文編の調査に比べて22%多い853機関、1,243館（室）が参加する予定です（平成9年10月24日現在）。今回の全国調査説明会には、これらの図書館（室）から983名の方々が参加なさいました。

説明会では、全国調査の意義と概要、作業手順、データ記入の方法などを中心とした説明を行い、その後、希望者向けにCD-ROM全国調査システムの説明を行いました。

また、今回は、説明会と同程度の内容をWWWでも提供いたします。目録情報課のホームページ（[URL : http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/welcome.html](http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/welcome.html)）からご覧いただくことができます。

現在、平成10年3月末の報告を目標に、各図書館（室）での調査作業を行っていただいております。平成11年3月末の新版刊行まで、関係者の皆様のご協力のほど、よろしく申し上げます。



（雑誌目録情報係）

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 「学術雑誌目次速報データベース」の進捗状況

前々号以降、「学術雑誌目次速報データベース」に対するデータ提供の申込みが27機関からあり、平成9年10月24日現在データ提供機関の参加状況は以下のとおりです。

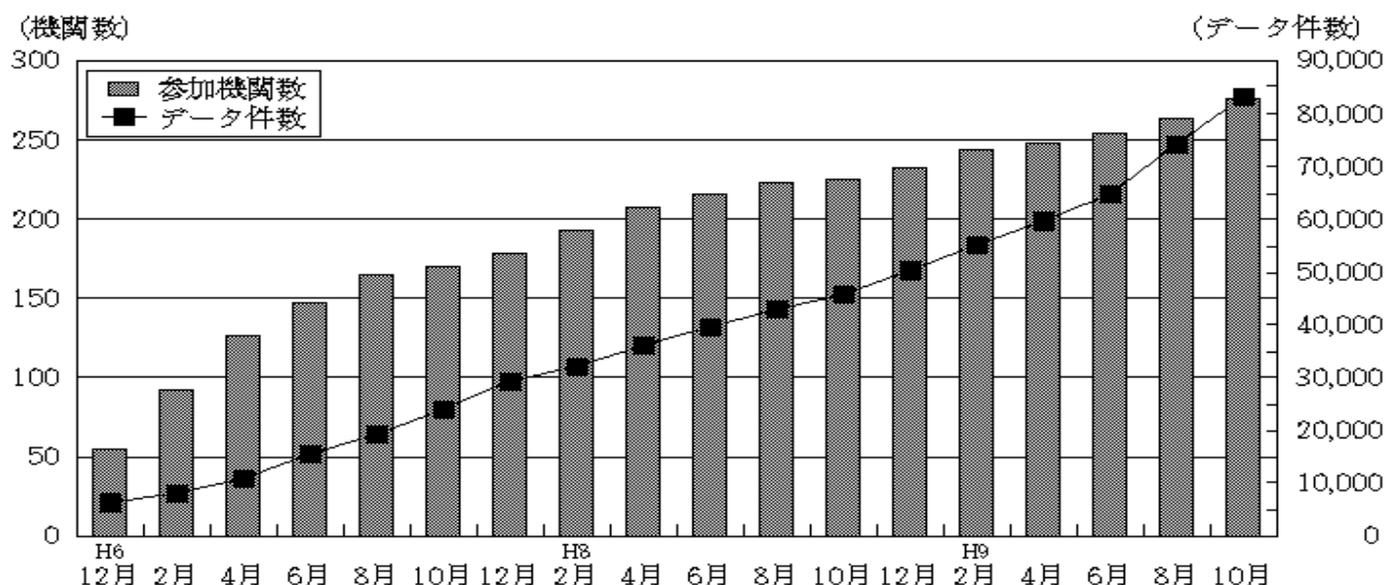
	機関数	組織数	雑誌数
国立大学	76	177	1,031
公立大学	13	16	68
私立大学	114	122	635
短期大学	34	34	71
高等専門学校	22	22	26
その他	17	17	287
合計	276	388	2,118

最新の参加機関、収録対象雑誌の一覧はGopher、WWWでも見ることができます。URLは以下のとおりです。

Gopher <gopher://gopher.nacsis.ac.jp/11/ir/sokuho>

WWW <http://www.sokuho.op.nacsis.ac.jp>

データベースの収録件数は83,000件になりました。サービス開始当初からのデータ件数と参加機関の推移は以下のとおりです。



また、このほど学会誌刊行センター（Center for Academic Publications Japan）の協力により同センターが刊行する「Current Contents of Academic Journals in Japan」誌のデータを収録することになりました。同誌は人文社会科学分野の学会誌を中心に採録した索引誌で、論文著者・論文標題・論文言語・掲載誌などを英語で掲載しています。これにより従来の紀要を中心としたデータベースの収録対象に学会誌が加わり、データベースの一層の充実が期待できます。

なお，このデータベースに関するお問い合わせは，データベース課文献データベース係（TEL.03-3942-6975～6，FAX. 03-3942-9398）までお願いします。

（データベース課）

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# NACISIS-ILL 利用状況（平成9年度前期）

平成9年9月30日現在

## 1. 利用機関

区 分	国立大学	公立大学	私立大学	その他	計
機 関 数	98	25	166	87	376
参加組織数	242	32	199	91	564

## 2. 月別レコード件数

年 月	複 写	貸 借	計
1997年4月	50,277	2,177	52,454
5月	65,069	3,242	68,311
6月	67,701	3,844	71,545
7月	69,151	4,328	73,479
8月	55,950	3,340	59,290
9月	66,249	3,486	69,735
合 計	374,397	20,417	394,814

## 3. 図書館種別の流動

上段：複写件数，中段：貸借件数，下段：合計

依頼館 受付館	国立大学	公立大学	私立大学	その他	合 計
国立大学	262,266	797	7,774	8,928	279,765
	11,268	348	1,538	822	13,976
	273,534	1,145	9,312	9,750	293,741
公立大学	11,739	1,130	5,311	873	19,053
	421	115	359	84	979
	12,160	1,245	5,670	957	20,032
私立大学	17,041	1,655	34,182	2,369	55,247
	1,290	234	2,234	350	4,108
	18,331	1,889	36,416	2,719	59,355
その他	12,305	960	6,090	977	20,332
	755	87	387	125	1,354
	13,060	1,047	6,477	1,102	21,686

	303,351	4,542	53,357	13,147	374,397
合 計	13,734	784	4,518	1,381	20,417
	317,085	5,326	57,875	14,528	394,814

( 目録情報課 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 「アメリカン・センター図書館総合目録データベース」および

## 「海外研究プロジェクトデータベース」サービス終了

平成2年7月からサービスを開始した「アメリカン・センター図書館総合目録データベース」および平成2年5月からサービスを開始した「海外研究プロジェクトデータベース」について、情報検索サービスを終了することとなりましたのでお知らせします。

### 1. サービス終了の経緯

#### (1) アメリカン・センター図書館総合目録データベース

データベース提供者（アメリカ合衆国大使館広報・文化交流局）から、データベース提供およびサービス終了の申し出がありました。

#### (2) 海外研究プロジェクトデータベース

EXIRPTS（Exchange of Information on Research Projects：研究プロジェクト情報の国際交換）事業からの参加各国の脱退により、データ交換が実質的に不可能となりました。その後も各機関と個別の交渉を行い、データ収集の継続について、打診を続けてきましたが（センターニュースNo.25参照）、事態の改善がみられないため、本データベースによる情報の収集・提供を終了します。

### 2. サービス終了日

両データベースともに、平成9年12月27日（土）

### 3. サービス終了後の情報の入手について

#### (1) アメリカン・センター図書館総合目録データベース

米国大使館広報・文化交流局のホームページ（<http://www.usia.gov/posts/tokyo>）上で「アメリカン・センター・レファレンス資料室目録データベース」を公開する予定です。（1998年2月予定）

また、各アメリカン・センター・レファレンス資料室にて、レファレンス・サービス（閲覧・検索・文献複写、電話での問い合わせも可。ただし、貸出は不可）を行っています。

各レファレンス資料室の連絡先は以下のとおりです。

	住 所	連絡先	開館日時
東京	〒105 東京都港区芝公園2-6-3 ABC会館11階	Tel(03)3436-0901 Fax(03)3436-0273	12：00～18：00(月～金) 電話受付 13：00～17：00(月～金)
名古屋	〒450 名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センタービル6階	Tel(052)581-8641 Fax(052)561-7215	13：00～17：00(月～金)

関西	〒530 大阪市北区西天満2-11-5 大阪米国領事館ビル	Tel(06)315-5964 Fax(06)361-5980	13 : 00 ~ 17 : 00(月 ~ 金)
福岡	〒810 福岡市中央区天神2-2-67 西鉄Dビル8階	Tel(092)733-0246 Fax(092)716-6152	13 : 00 ~ 18 : 00(月 ~ 金)

## ( 2 ) 海外研究プロジェクトデータベース

参考として、主なEXIRPTS参加機関のホームページアドレスを次に掲げます。

研究プロジェクトに関連する情報を公開している機関もあります。

国名	機関名	URL
アメリカ	NSF(National Science Foundation)	<a href="http://www.nsf.gov/grants.htm">http://www.nsf.gov/grants.htm</a>
イギリス*	EPSRC(Engineering and Physical Sciences Research Council)	<a href="http://www.epsrc.ac.uk/">http://www.epsrc.ac.uk/</a>
カナダ	NRC(National Research Council)	<a href="http://www.nrc.ca/">http://www.nrc.ca/</a>
ドイツ	DFG(Deutsche Forschungsgemeinschaft)	<a href="http://www.dfg.de/">http://www.dfg.de/</a>
フランス	CNRS(Centre National de la Recherche Scientifique)	<a href="http://www.cnrs.fr/">http://www.cnrs.fr/</a>
イタリア	CNR(Consiglio Nazionale delle Ricerche)	<a href="http://www.cnr.it/">http://www.cnr.it/</a>
スウェーデン**	NUTEK(Narings-och teknikutvecklingsverket)	<a href="http://www.nutek.se/">http://www.nutek.se/</a>

\*当初、SERC(Science and Engineering Research Council)でサービスされていたデータベースは、現在はEPSRCによりサービスされています。

\*\*STU(Styrelsen for Teknisk Utveckling)は、組織改組により、NUTEKとなりました。

なお、学術情報センターのデータについては、「科学研究費補助金研究成果概要データベース (KAKEN)」により、最新のデータを検索可能です。

( データベース課 )

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

## 接続ニュース

前号以降，新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は，以下のとおりです。

(平成9年9月現在)

No.	機 関 名	接続日	No.	機 関 名	接続日
557	釧路短期大学	9.8.12	562	秋田経済法科大学	9.9.19
558	プール学院大学	9.8.20	563	湘南工科大学	9.9.19
559	星稜女子短期大学	9.8.26	564	産業技術短期大学	9.9.29
560	愛知県立看護大学	9.8.28	565	中部学院大学・中部女子短期大学	9.9.30
561	富士大学	9.9.16			

この結果，参加機関数は，国立大学98，公立大学38，私立大学268，大学共同利用機関12，短期大学48，高等専門学校25，その他76，合計565となりました。

(共同利用第一係)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# NACISIS - CATデータベース構築状況

平成9年11月21日現在

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総合 目録 デ ー タ ベ ー ス	図 書	書 誌	3,474,732	
		書 誌(遡及)	720,700	
		所 蔵	30,020,727	
	雑 誌	書 誌	211,993	
		所 蔵	3,109,708	
	著者名典拠		969,805	
	統一書名典拠		13,389	
	和雑誌変遷マップ		8,610	
	洋雑誌変遷マップ		15,058	
	参 照 フ ァ イ ル	L C / M A R C	洋図書書誌	5,359,709
洋雑誌書誌			766,653	1973年1月～1997年10月
非文字書誌			268,147	1973年1月～1993年12月
洋書著者名典拠			3,073,605	1977年1月～1997年10月
洋書統一書名典拠			210,313	1977年1月～1997年10月
J P / M A R C		和図書書誌	1,936,310	1948年1月～1997年10月
		和雑誌書誌	100,582	1968年8月～1996年9月
		和書著者名典拠	325,315	
U K / M A R C		洋図書書誌	1,594,769	1950年1月～1997年5月
T R C / M A R C		和図書書誌	605,496	1985年4月～1997年10月
G P O / M A R C		洋図書書誌	413,710	1976年1月～1997年9月

総合目録データベースは、平成9年4月14日より和洋統合しました。

(システム業務係)

# NACISIS - IRデータベース収納状況

平成9年11月21日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金研究成果概要データベース	207,452	1985年～
2	学位論文索引データベース	168,039	1953年9月～
3	学会発表データベース	322,234	1987年3月～
4	学術論文データベース第一系 (全文)	5,174	1989年4月～
	(電子関連) (抄録)	7,843	
5	学術論文データベース第二系 (化学関連)	21,265	1983年1月～
6	学術論文データベース第五系 (理学関連)	10,307	1990年11月～
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	1992年1月末現在
8	民間助成研究成果概要データベース	6,623	1964年～
9	経済学文献索引データベース	157,198	1983年1月～
10	学会予稿集電子ファイル	215,098	1948年11月～
11	臨床症例データベース	7,495	1981年1月～
12	学術雑誌目次速報データベース	96,199	1938年1月～
13	科学研究費補助金採択課題データベース	62,493	
14	雑誌記事索引データベース	1,670,981	1984年1月～
15	民間助成決定課題データベース	14,203	1994年4月～
16	現行法令データベース	3,895	1997年2月現在
17	維新史料綱要データベース	28,667	
18	古文書目録データベース	3,014	
19	木簡データベース	15,925	
20	研究者ディレクトリ	130,292	1995年5月現在
21	データベース・ディレクトリ	2,197	1996年9月現在
22	家政学文献索引データベース	126,123	1945年～
23	RAMBIOS	10,309	1983年4月～
24	化学センサーデータベース	20,052	1975年1月～
25	日本独文学会文献情報データベース	27,872	1947年～
26	スラブ地域研究文献データベース	3,373	1988年～
27	電気化学データベース	81,846	
28	文化財科学文献データベース	17,413	1879年～
29	化学と教育誌データベース	3,537	1972年～
30	現代邦楽作品データベース	1,665	1963年～
31	日本建築学会文献索引データベース	71,781	1976年～
32	北海道大学北方資料総合目録データベース	43,800	

33	中東・イスラーム研究文献索引データベース	15,816	
34	中央アジア研究文献索引データベース	15,857	
35	アジア歴史研究者ディレクトリ	1,799	
36	印度学・仏教学研究ディレクトリ	759	
37	ロシア外交史料館日本関連文書目録データベース	5,466	
38	教科教育実践学関連資料（国語科）データベース	9,000	
39	Life Sciences Collection PLUS Marine Biology and Bio Engineering	1,839,945	1982年1月～
40	MathSci	1,867,945	1940年1月～
41	COMPENDEX PLUS	3,614,349	1976年1月～
42	Harvard Business Review	2,860	1927年1月～
43	ISTP & B	3,130,022	1982年1月～
44	EMBASE	4,373,879	1984年4月～
45	SciSearch	11,208,333	1983年1月～
46	Social SciSearch	1,930,654	1983年1月～
47	A & H Search	1,726,023	1983年1月～
48	目録所在情報データベース （和図書）	1,287,034	
		17,422,017	
49	目録所在情報データベース （洋図書）	2,523,331	
		8,173,756	
50	目録所在情報データベース （和雑誌）	83,880	
		1,872,659	
51	目録所在情報データベース （洋雑誌）	122,342	
		1,163,408	
52	科学技術関係欧文会議録データベース	51,872	1985年1月～
53	アメリカン・センター図書館総合目録データベース	5,883	1993年10月現在
54	JPMARC	1,914,390	1868年1月～
55	LCMARC(Books)	4,318,951	1968年1月～
56	LCMARC(Serials)	766,653	1973年1月～
57	大型コレクションディレクトリ	538	1978年4月～
58	日本の医学会会議録データベース	27,029	1990年～
59	国会図書館洋図書目録データベース	167,100	1986年～
60	学術関係会議等開催情報（日本学術会議編）	18,496	1991年4月～
61	学協会集会スケジュール（日本工学会編）	9,053	1992年7月～

（注） 48～51のデータベースの上段は書誌件数，下段は所蔵件数。

（システム業務係）

# 平成9年度利用説明会開催予定

平成9年度も平成8年度に引き続き、本センターの各サービスを利用していない機関を対象として、下記の日程で利用説明会を開催いたします。この利用説明会では、各サービスの紹介、概要説明、申請方法の説明などを行っています。これらの説明会はシステムの操作方法などの講習会ではありませんのでご注意ください。

## 1. 目録所在情報サービス利用説明会

### 1.1 主な内容

(1) 学術情報センターの概要 (2) 目録所在情報サービスの概要 (3) 学術情報センターとの接続方法 (4) 利用申請方法 (5) 研修の申込方法 (6) 質疑応答・個別相談

### 1.2 開催日時および申込締切

	開催日時	募集開始	申込締切
第4回	平成10年2月6日(金)13:30 ~ 16:30	平成10年1月5日 (月)	平成10年1月23日 (金)

### 1.3 対象機関

目録所在情報サービスに未接続の(1) 国公立大学 (2) 短期大学 (3) 高等専門学校 (4) 文部省および文化庁の施設・機関など (5) 国公立試験研究機関 (6) 学術研究法人および学会 (7) 都道府県・政令指定都市立図書館など

なお、先着14機関とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話(03-3942-6933)で予約(確認)のうえ、(1) 参加希望の説明会名(目録所在情報サービス、情報検索・電子メール、学術情報ネットワーク) (2) 参加日(第 回 月 日) (3) 機関名 (4) 機関の所在地 (5) 参加者の職名および氏名(2名以内) (6) 連絡先の電話番号を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。

FAXの書式例は教育研修事業要綱に、「利用(加入)説明会申込み用FAX送信票」が添付されていますのでご利用ください。

問い合わせ先:

TEL: (03) 3942 - 6933

FAX: (03) 3942 - 6797

(共同利用第一係)

# タイ王国からの招へい研修の実施

学術情報センターでは、国際交流基金の協力を得て、アジアにおける日本情報の流通を促進するため「タイ・オンライン・プロジェクト」を推進しており、その一環としてタイ王国のチュラロンコーン大学、タマサート大学、国際交流基金バンコック日本文化センターの3機関から各1名ずつ、計3名の方を招へいし、平成9年9月29日（月）～10月3日（金）の日程で研修を実施しました。

この研修の目的は、NACSIS-IRのインストラクターを養成し、今回の招へい者を中心にタイ王国で研修会を開催すること、更にタイ王国に学術情報センターのサービスを定着化させ、サービスの利用促進をはかることにあります。

研修は、NACSIS-IRの講義の他、応用的な検索演習、タイ王国での研修会の実施や講義資料に関するディスカッションを行い、科学技術振興事業団科学技術情報事業本部の見学も実施しました。

更に、国際高等セミナーハウス（軽井沢）では、タイ王国での研修に備えた資料作成を行うとともに、軽井沢と大塚との間をテレビ会議システムで接続し、センター職員も見守る中で修了式が行われ、研修参加者全員に修了証書が手渡されました。

なお、この研修は国際交流基金アジアセンター助成研究「アジア・スーパーハイウェイ上のアジア情報」（研究代表者 小野欽司教授）の一環として実施されました。



所長を囲んで



研修風景

( 研修課 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 平成9年度学術情報センター・セミナーの開始

平成9年度学術情報センター・セミナーを，平成9年10月6日から，下記のとおり実施しています。

## 1．目的

高度化する学術情報システム的环境に対応しうる知識と技術を修得し，各大学において今後の学術研究活動支援の中核となる要員を育成することを目的としています。

## 2．主な研修内容

研修の中心は，各研修員が自ら設定した課題を，学術情報センター教官の指導を受けながら遂行する個別研究です。このほか外部招へい講師および学術情報センター教官による学術情報システムに係る講義，外部機関の見学などの内容で実施しています。

## 3．研修員

今年度は以下の3名の方をお迎えしています。

- ・松尾博朋（北海道大学附属図書館）
- ・渡邊隆弘（神戸大学附属図書館）
- ・中尾康朗（熊本大学附属図書館）

## 4．研修期間

前期：平成9年10月6日（月）～12月19日（金）

後期：平成10年1月12日（月）～2月27日（金）

## 5．その他

（1）研修員の個別研究の成果は，研修終了後に「学術情報センター・セミナー研究レポート」として刊行します。

（2）セミナーのカリキュラムその他の詳細は[WWW（URL  
http://www.nacsis.ac.jp/hrd/welcome.html](http://www.nacsis.ac.jp/hrd/welcome.html)）で公開しています。



研 修 員

( 研修課 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 平成9年度総合目録データベース実務研修 修了 報告

平成9年度総合目録データベース実務研修を，第1回は平成9年10月6日～10月24日，第2回は11月10日～28日の各3週間の日程で実施し，計24名（各回12名）の研修員の方が全課程を無事修了されました。これにより，同研修の修了者数は327名になりました。

この研修の目的は，目録所在情報サービスの参加機関において指導的，中核的な役割を担う人材を養成することにあります。

研修は，目録所在情報サービスに係る内容を中心とした講義・ディスカッション，国立国会図書館および図書館流通センターの見学に加え，自由テーマでの個別研修を実施し，レポートを作成・提出していただきました。研修の内容および提出されたレポートはWWW（URL <http://www.nacsis.ac.jp/hrd/welcome.html>）で公開しています。

なお，研修を修了された方々は以下のとおりです。

## 平成9年度総合目録データベース実務研修 修了者名簿

第1回		第2回	
氏名	所属機関	氏名	所属機関
栗林久美子	東京大学	中村昌弘	旭川医科大学
中川真紀	東京工業大学	片桐和子	北海道大学
大塚志乃	金沢大学	内ヶ崎洋一	東北大学
大鍋千香子	愛知教育大学	川合広子	東京大学
藤山優美	京都大学	平井洋	東京学芸大学
前田信治	大阪大学	高橋菜奈子	新潟大学
森本秩代	兵庫教育大学	押見智美	信州大学
沖政広	九州大学	菊池一長	神戸大学
西村理絵	長崎大学	尾崎文代	広島大学
伊波ひとみ	熊本大学	高城章代	鹿児島大学
古賀文子	宮崎医科大学	浜口都紀	日本女子大学
須藤玲子	青山学院女子短期大学	中村浩子	桐朋学園大学



第1回研修



第2回研修生

(研修課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 海外における日本情報の需要と供給に関する研究

Mrs. SUN Beixin , Dr. PARK Ke Hong招へい

平成7年より3年計画で実施している科学研究費国際共同研究「海外における日本情報の需要と供給に関する研究」（研究代表者：井上如副所長）では、平成9年9月8日より13日にかけて、Mrs. SUN Beixin（孫倍欣先生：中国国家図書館副館長・教授・研究図書館員）およびDr. PARK Ke Hong（朴啓弘教授：前韓国図書館協会会長；韓国東園工業専門学校教授）を招へいして、中国・韓国における日本情報に関する状況について意見交換した。お二方ともこれまで、学術情報センターに限らず、日本からの訪問者の多くを受け入れられてこられたので、日本でも9月9日にはセンターにおいて、学術情報システム構想、学術情報センター・サービスの最新状況などについて紹介の後、猪瀬博所長と懇談した。

9月12日午前には国立国会図書館を訪問し、緒方信一郎館長と懇談した。国立国会図書館は中国国家図書館との定期交流に加えて、韓国国立中央図書館との定期交流を開始するとのことで熱心に情報が交換された。また国立国会図書館電子図書館システムの最新状況を視察した際には強い興味が示された。

9月12日午後には国立教育会館（千代田区霞が関）において一般公開の報告会を開催し、約60名の出席者を得た。講演者・演題は下記の通りである。

孫 倍欣先生 “Development of Networking Resources in China”（中国におけるネットワーク情報資源の開発）

宮澤 彰教授（学術情報センター教授）「多言語目録（中国語） 課題と将来」（“Multi-lingual Catalog（Chinese）：Tasks and Future”）

島村 隆夫所長（国立国会図書館図書館研究所）「21世紀に向けての情報基盤整備 国立国会図書館の近況」（“Rebuilding Information-based Library Services for the 21st Century: Current Status of NDL”）

朴 啓弘教授「近代韓国図書館・情報サービスの発展」（“Modern Development of Korean Library and Information Services”）

講演では、Mrs. SUN Beixinは中国におけるデータベース開発を中国科学院を例として紹介され、中国で多岐にわたるデータベース開発が進行中であることを報じられ、この分野における技術交流の必要性を指摘された。

Dr. PARK Ke Hongは長らく韓国図書館協会の活動に携わられ、韓国における図書館学校の設置、図書館法の成立などの状況について生き生きとした日本語で論じられた。

島村図書館研究所長は国立国会図書館におけるシステムおよびデータベース開発状況について報じられた。

宮澤教授は現在、当センターが進めているNACSIS-CATにおける中国語処理の開発状況と問題点について、きわめて基本的な要因を挙げて、論じられた。

## データベース '97 TOKYOの出展報告

平成9年9月17日（水）から19日（金）の3日間，東京国際フォーラム展示ホールにおいて，財団法人データベース振興センターおよび日本データベース協会の主催により，内外のデータベースや電子情報サービスについての最新システムを一堂に集めた「データベース'97 TOKYO」が開催された。同展示会は今年で9回目を迎え，毎年3万人以上の入場者を誇っており，今年の3日間の総入場者数は会場を東京国際フォーラムに変更したこともあり，昨年と比べて3,000名以上増加し37,259名であった。

学術情報センターからも事業の紹介と学術情報の流通の促進を図るため3年連続して出展し，インターネットを介して，今年度からサービスを開始した電子図書館サービス（NACSIS-ELS），情報検索サービス（NACSIS-IR），目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL），学術雑誌総合目録CD-ROMの実演などを行った。



開会式での猪瀬データベース振興センター理事長のあいさつ



開会式でのテープカット



学術情報センターブースでの風景

（共同利用第一係）

# 海外からの来訪者一覧

[平成9年7月17日～10月31日]

来訪日	氏名	所属
8 . 1	Ms. Chimi Wangmo Dazer	全国女性協会プロジェクトコーディネーター
	Ms. Hongyan Li	中華婦女連合会国家公務員
	Ms. Ruth Roiroi Pukura Noo Tuka	内務省女性部内公共サービス協会企画および調査官
	Ms. Burenjargal Tegshee	保健および社会福祉省青年・家族および女性局女性問題担当官
	Ms. Neeta Shahi	地域援護センターインフォメーションコーディネーター
	Ms. Lubna Mansoor	カワジャフリード特殊教育センターソーシャルケースワーカー
8 . 5	Mr. James Kariya	マンスフィールド太平洋問題研究所研修生
9 . 4	Mr. Mock Pak Lum	One Net社社長
	Mr. Bart Voeten	One Net社チーフテクノロジーオフィサー
	Mr. Homer Tan	TAS社
9 . 9	Dr. Park Ke Hong	韓国東園工業専門学校教授（前韓国図書館協会会長）
	Ms. Sun Beixin	中国国家図書館副館長・研究図書館員
9 . 12	Mr. Kim Sung-Hyuk	淑明女子大学図書館情報学部教授
9 . 19	KDPC delegates	韓国データベース振興センター
10 . 13	Ms. Narit Nimsomboon	タマサート大学図書館・情報科学部教養学科講師
10 . 23	Ms. Mariam Abdul Kadir	マレーシア国立図書館館長
10 . 24	Ms. Chiu-Fang Kao	行政院国家科学委員会科学技術資料中心（STIC）研究員
	Ms. Yi-Ping Hsu	STIC助理研究員
	Mr. Chia-Ping Hsieh	STIC助理研究員
	Ms. Li-Huan Chang	STIC助理分析師

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 人 事 異 動

発令年月日	氏 名	新 官 職 名など	旧 官 職 名
(併任)			
9 . 10 . 1	後藤田洋伸	教育研修部学術情報システム ム教育室	
(転入)			
9 . 11 . 1	淵上 光明	事業部ネットワーク課長	千葉大学経理部情報処理課 長
(転出)			
9 . 11 . 1	木下 伸二	国立民族学博物館情報管理 施設情報企画課長	事業部ネットワーク課長
	太田和良幸	文部省高等教育局私学部学 校法人調査課長	研究開発部学術情報研究系 データベース研究部門教授

---

[目次へ戻る](#)